

# 東京病院ニュース

## 第62号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院  
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1  
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168  
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~tokyo/>

## 平成29年4月号に寄せて

国立病院機構東京病院院長 大田 健

平成29年度が始まりました。私にとっては東京病院の院長に就任して6年目を迎えることになり、集大成の年でもあります。平成28年度もスタッフ全員そして連携医の諸先生の協力を得て、平成26年度から3年間連続して黒字を維持することが出来ました。昨年度は、日本医療機能評価機構から一般病院2として3度目の認定と緩和ケア病院の新規の認定を受け、また東京都地域医療支援病院としての認定を受けて、当院の医療の質にある程度のお墨付きを頂きました。今年度は回復期リハビリテーションをⅡからⅠへとグレードアップすることを実行致します。また日本医療機能評価機構によるリハビリテーション病院としての機能評価も受けることを検討中です。4月1日付けで東京都がん診療連携協力病院(肺癌)の認定を得たことで、がん診療を一層充実させます。今年度の当院の診療目標は、「ホップ・ステップ・ジャンプ — すべてに一層の充実と飛躍を一」としており、昨年度の「病院の機能と個人の実力を最大限に活用できる医療環境の構築と最善の医療の実行」を継続し加速することを目標としております。そしてこの診療目標のもとに、一層充実した内容の医療が実施するために必要な改革を可能な限り迅速に実行したいと思っております。新たなスタッフは次号以降に顔の見える形で紹介して参りますが、新人としてあるいは人事異動により加わる新しい力が存分に活躍することを期待しているところです。

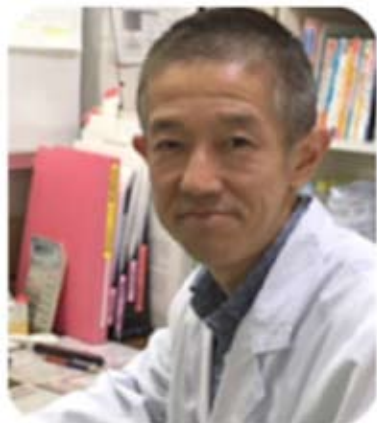
当院の役割は、地域医療支援病院に相応しい医療の提供であり、急性期医療を中心に二次救急と地域災害拠点病院としての機能も視野に入れながら、良質の医療を提供することにあると認識しております。また、当院の持ち味である呼吸器分野では、地域医療への貢献と同時に、日本における筆頭病院としてさらに内容を充実させ、国際的にも遜色のない内容で発展させる覚悟でいます。政策医療である結核診療においても拠点病院として、社会のニーズに合わせて病床数を確保しながら運営し、日本が低蔓延国になることに貢献する覚悟です。

素晴らしい自然と建物、そして、優れた人材から構成されているめぐまれた環境を十分に活用して、今年度も全員で頑張る所存です。「自分や自分の家族がかかりたい病院」を念頭に、スタッフ全員がそれぞれの職責をしっかりと果たせる職場として、引き続き運営したいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。

平成29年4月吉日



## 連携医の方を紹介します



### 北多摩生協診療所

所長 小泉 健雄 先生



標榜科 内科

2016年6月より「在宅療養支援診療所」として訪問看護ステーションと連携しながら24時間365日サポートできる体制で在宅医療を行っています

所長からの一言：

北多摩生協診療所は、誰もが利用できる、地域のかかりつけの診療所です。内科一般だけでなく、糖尿病をはじめ、神経内科、循環器、消化器、呼吸器などさまざまな疾患に対応しています。

また、昨年より在宅療養支援診療所として在宅医療を強化。通所リハビリテーション、在宅の方に向けてご自宅に訪問してのリハビリも実施しています。気軽に受診や相談ができ、在宅医療やリハビリのご要望にもお応えできる診療所として、お気軽にご相談ください。

●訪問診療（強化型在宅支援診療所）

通院が困難な方のご自宅に医師が定期的に訪問診察を行っています。

●通所リハビリ（介護保険）

それぞれに合わせたリハビリプログラムを作成し、心身の維持・回復や生活機能の維持・向上をめざしリハビリを行っています。歯科衛生士による口腔ケア、半日だけの短時間リハや生活行為向上リハ、認知症リハ、医療依存度の高い方の受け入れも行っていきます。

●訪問リハビリ（介護保険）

理学療法士・作業療法士がご自宅へお伺いし、本人の目標に合わせたリハビリを提供します。住宅評価を行い、住宅改修等の提案も行っていきます。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後 14:00 ~ 16:30	○	×	○	○	○	×	×
午後 18:00 ~ 19:30			○				

【専門外来】

神経内科（月曜午後）、糖尿病（水曜午前）、呼吸器内科（金曜午後）、循環器内科（水曜午後）

【休診日】火曜午後、土曜午後、日曜・祝日



所在地：〒189-0014

東村山市本町 4-2-32 ドルチェ久米川

連絡先：TEL 042-393-5903

FAX 042-395-5612

E-mail : seikyo@saito.coop

## 連携医の方を紹介します



榎本先生

高世先生

### 東久留米なごみ内科診療所

医師 榎本 光信 先生

医師 高世 秀仁 先生



標榜科 内科 循環器内科  
緩和ケア内科 訪問診療

#### 院長からの一言：

地域の“かかりつけ医”として、健康管理，病気の治療，介護のことなど何でもご相談ください。専門医としての知識と経験をいかし、ていねいな診療を心がけています。

外来診療は、高血圧や糖尿病をはじめとする慢性疾患の管理指導のほか、禁煙外来や睡眠時無呼吸症候群の対応もしています。また、インフルエンザ・肺炎球菌ワクチン接種や健康診断も承っております。緩和外来では、がんの方の心と体の痛みに対するケアを行っています。療養上のお困り事はソーシャルワーカーがご相談にのりお手伝いします。

訪問診療は24時間365日に対応しています。



♪セラピードック（トイプードル“そらちゃん”）とのふれあいの場もあります♪

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 12:30	○	○	○	○	○	○	×
午後 15:00 ~ 18:00	○	○	○	○	○	×	×

※ 診療受付は終了15分前です。ご予約希望の方は午後に予約枠もあります。

《休診日》土曜午後、日曜・祝日



所在地：〒203-0052

東久留米市幸町3-11-14

(東久留米消防署となり)

連絡先：TEL 042-470-7530 (代表)

交通：西武バス 幸町三丁目バス停すぐ

## 当院エキスパート医の紹介

消化器外科医長 中田 博

平成19年から東京病院・消化器外科で勤務している中田 博です。

消化管から肝胆膵まで幅広い分野を診療していますが、特に大腸疾患を専門としております。大腸癌は食の欧米化や遺伝子要因などの影響で罹患率や死亡率が増加してきています。まずは早期発見をすることが治療の始まりと考えます。大腸内視鏡検査を良好に行うには経験や専門的な技術を要することがあり、専門医による観察が不可欠です。早期の癌であれば内視鏡的切除が可能であり、おなかを切らずに済ませられます。

外科的治療においては、大学病院時代から行っていた機能温存（肛門・自律神経温存）手術や、小切開手術・腹腔鏡（補助下）手術といった患者さんに負担の少ない手術方法（低侵襲手術）を積極的に取り入れ、過不足のない手術を行っています。術式については、患者さんやご家族にわかりやすく説明し、安心・安全の手術を選択させていただきます。

術後（進行度による）や進行・再発の患者さんには化学療法（抗癌剤治療）も担当しております。ガイドラインに沿って患者さんと一緒に考え、意向を聞きつつ病気の治療を行っております。大腸癌抗癌剤の進歩は目覚ましく、腫瘍縮小により切除可能となって完治を目指せるようになりました。

私は『患者さんに対する十分な説明とそれぞれの人生や生活の質を中心に考えた治療』を大事にする診療を目標にし、治療はチーム医療を基本とし様々な職種の専門意見を取り入れることを心掛けています。患者さんの話をよく聞き、満足度の向上に努めています。セカンドオピニオンの受診も引き受けています。診療を希望される方は予約センターまで遠慮なくご連絡ください。

神経内科医長 椎名 盟子

平成25年に東京病院・神経内科にまいりました椎名盟子です。

神経内科では、脳血管障害、パーキンソン病・脊髄小脳変性症や多発性硬化症などの神経難病や認知症の方々を診療しています。手足が動かしにくい、ふるえる、歩行しにくいなどの症状がありましたら神経内科外来を受診してください。物忘れの診療では、ご本人の日常の様子がわかるご家族の方と一緒に受診していただけますと情報が得られやすく助かります。神経学的所見をとり、採血やCT・MRIやシンチグラムなどの検査を行います。神経内科の疾患は年齢を重ねると出現しやすくなります。患者様だけではなくご家族や地域の方たちとともに、理にかなった診療とリハビリやケアを行いながら見守ることが重要になってきます。

日本社会の高齢化に伴い、神経内科のみならず他の診療科の疾患を複数伴う方も多く、高齢者のみの世帯や高齢独居であることなど社会的な問題も増えています。病院内では、他の診療科・リハビリテーション科・看護部・薬剤部や医療連携室など多職種の意見も取り入れて地域につなげるようにしております。地域では、かかりつけ医・訪問看護ステーション・ケアマネや包括支援センターなどと協力し、時に消防や警察とも連絡をとります。皆さまが地域で安心して過ごすことができるように努力してまいります。

# 第14回 結核研修セミナー報告

毎年2月に東京都医師会との共催で開催している結核研修セミナーは、今年14回目を迎えました。2月4日（土）、神田学士会館の大ホールをお借りして、総勢151名の参加で無事終了しました。今年は、基本的な話は少なくして、結核診療をしたことのある先生方が疑問に思うような事柄を中心にプログラムを組んでみました。例年は50-80人程度の出席者でしたが、今年は大幅に出席者が増加し、また、参加者アンケートも好評でした。1時間弱、予定時間をオーバーしてしまい、ご迷惑をおかけしましたが、次回は時間通りの進行を心掛けたいと思います。



参考に今年のプログラムを掲載します。ご興味のある先生方は2018年2月3日（土）神田学会館で、第15回結核研修セミナーを開催予定（変更の可能性あり）ですので、ぜひご参加いただければと思います。参加には事前登録が必要ですので、12月ごろに当院のホームページを確認していただければと思います。

#### 第14回 結核研修セミナープログラム

- 日 時：平成29年2月4日（土） 13時30分から
- 場 所：学会館 210号室 東京都千代田区神田錦町 3-28
1. 「東京都の結核の現状」 13:40～14:10  
東京都福祉保健局健康安全部 感染症対策課長 杉下 由行
  2. 「結核診断のコツ」
    - 2-1 「胸部レントゲン空洞影に対する診断の進め方」 14:10～14:25  
国立病院機構東京病院 呼吸器内科医師 井上 恵理
    - 2-2 「血痰患者に対する診断の進め方」 14:25～14:40  
国立病院機構東京病院 呼吸器内科医師 武田 啓太
    - 2-3 「菌証明のない結核の診断」 14:40～14:55  
国立病院機構東京病院 呼吸器内科医師 島田 昌裕
  3. 「結核治療のコツ」
    - 3-1 「改訂版 結核ガイドラインの読み方」 15:05～15:20  
国立病院機構東京病院 呼吸器内科医師 佐藤 亮太
    - 3-2 「IGRA陽性でもLTBIとして治療を開始しない場合と  
IGRA陰性でもLTBIとして治療を開始する場合」 15:20～15:35  
国立病院機構東京病院 呼吸器内科医師 赤司 俊介
    - 3-3 「結核治療におけるステロイドの使い方」 15:35～15:50  
国立病院機構東京病院 呼吸器内科医師 成本 治
  4. 「結核菌の新しい診断法」 15:50～16:25  
結核予防会結核研究所 抗酸菌部 部長 御手洗 聡

## 第8回東京病院市民公開講座

統括診療部長 小林 信之

第8回東京病院市民公開講座は、平成29年2月26日（日）14時より、当院の外来ホールにて開催されました。今回は、インフルエンザ流行もやや下火となった時期に行われ、日曜日にもかかわらず95名の皆様にご参加いただきました。大会議室から外来ホールに開催場所を変えて3回目となりますが、スライドは高い位置にあり見やすく、スピーカーの音量も問題なく、外来のソファでゆったりと講演を聴かれたのではないかと思います。

今回の講演では、①放射線によるがん治療、②誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアをテーマとして選びました。東京病院では、昨年10月に新しい放射線治療機器（医療用直線加速器：リニアック）が導入され、より効果的で副作用の少ない治療が行われるようになりました。その宣伝の意味もあり、講演①では放射線科の三上明彦放射線診療センター部長より、「がんと言われたら放射線治療をどう使いますか？」というタイトルで、リニアックにより何が出来るか、根治照射と緩和照射、正常組織の障害を最小限に抑えるための方法（強度変調放射線治療、定位放射線照射など）、放射線治療の副作用等について、お話をされました。肺がんの放射線治療に関しては、ピンポイントで、しかも呼吸運動に同調して照射するという技術が必要ですが、新しいリニアックによる治療ではそれが可能です。当院で診療されている肺がんをはじめとする、がん患者さんは、大きな恩恵を受けることになるでしょう。

高齢者では誤嚥性肺炎は大きな問題です。食事のときは問題なく飲み込めていても、眠っているときなど、知らない間に鼻、のど、口腔内の分泌物の誤嚥を繰り返していることを不顕性誤嚥といいます。不顕性誤嚥は、加齢とともに飲み込む力や、異物に対する嚥下反射（咳など）が弱まることにより生じますが、普段健康に過ごしている方でも、嚥下機能が低下している可能性があるため、誤嚥への対策をとることが大切です。講演②では歯科の井関史子医師より、「肺炎予防に役立つお口のケア」というタイトルで、誤嚥性肺炎は口腔内のばい菌による不顕性誤嚥、誤嚥性肺炎予防のためには口腔ケアが有効かつ重要であること、口腔ケアの実際の方法などについて、口腔内の写真を多く使ってわかりやすくお話されました。とくに、口腔ケアではブラッシングが大切であり、寝る前など毎日1回は行き、そして続けて行うことが重要であることを強調されました。

会場に参加された皆様は熱心に聞き入っておられ、いくつもの質問が寄せられました。講演会場を外来ホールに変えて3回目となりますが、終了後のアンケートでは、講演会場や音響・スライドに関するネガティブな意見はほとんど見られなくなりました。来場された約40%の方は、今回がはじめての参加でした。講演内容については両講演とも好評であり、寒い季節に、お休みの日曜日にもかかわらず東京病院まで足を運んでくださった多くの皆様に満足していただけた、そして、東京病院をもっと知っていただけたと思っています。次回の市民公開講座は7月に開催する予定で、講演テーマは眼科疾患と、もう1つ呼吸器疾患を考えています。次回も、どうぞご期待ください。



三上医師による講演



井関歯科医師による講演

## 結核について (12)

呼吸器内科 山根 章

前回も、結核の感染についてお話ししました。

要約すると、

- ① 結核は結核菌が含まれている粒子（飛沫核）を吸引することによって感染します。
- ② 飛沫核は小さいので、気管支の奥の方（肺）にまで到達できます。飛沫核に含まれている結核菌は肺に定着して増殖を始めます。
- ③ その後、結核菌と体の免疫反応との複雑な作用を経て、病気の経過が定まってきます。ということでした。

今回は飛沫核の発生源である咳について考えてみたいと思います。

前々回からお話ししているように、結核菌を含んだ飛沫核を吸入することが感染の第一歩になります。だとすれば、結核患者さんがどのようにして飛沫核を発生させるかが問題となります。これについては前々回にも述べたように、患者さんの咳などによって飛散した飛沫が乾燥して飛沫核となります。

咳の他には、口呼吸や会話やくしゃみなどでも飛沫は飛散されます。しかし、咳が最も効果的に飛沫を発生させることが知られています。ある研究によると、1回の咳で400～500個の飛沫が放出されるといわれ、これは30秒大声でしゃべったときの飛沫数と同じということです。また、咳のときの飛沫には気管・気管支の粘液が多く含まれていて、唾液などが主成分である会話・くしゃみの際の飛沫に比べはるかに結核菌の量が多いと考えられます。

これに関して、口呼吸で産生される飛沫核に含まれる結核菌量を調べた研究があります。一般に口呼吸では鼻呼吸や会話に比較して多くの飛沫が産生され、咳のときと同程度の場合もあるといわれています。そこで、感染性が高いといわれる喀痰塗抹陽性結核患者さんを対象とした口呼吸に関する研究が行われました。

患者さんが安静口呼吸している時に産生される飛沫を特殊な装置で採取し、その中に結核菌が含まれているかどうかを検討したところ、どの患者さんの場合でも結核菌は含まれていませんでした。やはり、咳以外の飛沫核では感染はしにくいと考えて良いでしょう。

以上のことから、結核感染において咳の有無が非常に大切であることがわかります。咳の回数や咳が続いている期間が感染力と深く関わっています。

また、以前アメリカで行われた研究では、結核患者さんの咳で発生する飛沫中の結核菌の検討が行われました。その結果、治療前の患者さんでは、結核菌が検出されましたが、治療開始2～3週間後の患者さんでは結核菌は検出されませんでした。つまり、治療を始めると速やかに感染力がなくなることがわかります。

この研究グループは、結核患者さんの感染力に強く関わるのは、痰に含まれる結核菌量ではなく、咳で発生する飛沫中の結核菌量であると主張していますが、これは専門的すぎる話でしょう。今回のお話はこれで終わりです。次回も結核感染の話をしたと思います。



## 栄養補助食品について

栄養管理室 岡部 司 (管理栄養士)

年齢や疾患の関係で食が細くなると、体力や筋力が落ち活動量が減り、ますます食が細くなり、さらに体力や筋力が落ちる、と言う悪循環に陥ります。

食事をしっかりバランス良く食べることが大切ですが、食欲がないときは食事内容が食べやすい好みの物に偏りがちになり、体力や筋力の回復に必要な栄養素がとりにくくなってしまいます。

そのようなときには普段の食事に併用して栄養補助食品を利用すると少量でエネルギー、糖質、たんぱく質、脂質など必要な栄養源をとることができます。

栄養補助食品には、エネルギー、たんぱく質、脂質等を含む総合的な栄養補助食品から、ビタミン・ミネラル補充に特化したもの、エネルギーのみ補給したいもの、糖尿病、腎臓病、肝臓病といった疾患別に対応しているもの、など様々な用途別の食品があり、また液状、ゼリー状の形態別にもなっています。

病院等で補助食品として一般的に使われているのは液状の濃厚流動食で、食品扱いのものの場合、125ccで200kcalのコンパクトなタイプの物が主流となっています。これは食が細くなっている方に少量で効率的に栄養をとっていただきたいための工夫でもあります。(参考：牛乳200cc約140kcal)

なお、液体タイプの濃厚流動食には食品(例：メイバランス、クリミール等)医薬品(例：エンシュアリキッド、ラコール)があります。医薬品の濃厚流動食は医師から処方されるもので個人での購入はできません。食品の濃厚流動食は通信販売が主ではありますが、個人購入が可能です。最近ではスーパーやドラッグストアでも購入することができます。(介護用食品やスポーツドリンクコーナーに並ぶことが多い)

どのような物を選択したら良いか迷う場合は管理栄養士による栄養指導を受けることをおすすめします。サンプル提供が可能な場合もあります。栄養指導は医師の指示が必要ですので、まずは主治医にご相談ください。



食品の例



医薬品の例

## おくすりあれこれ (6)

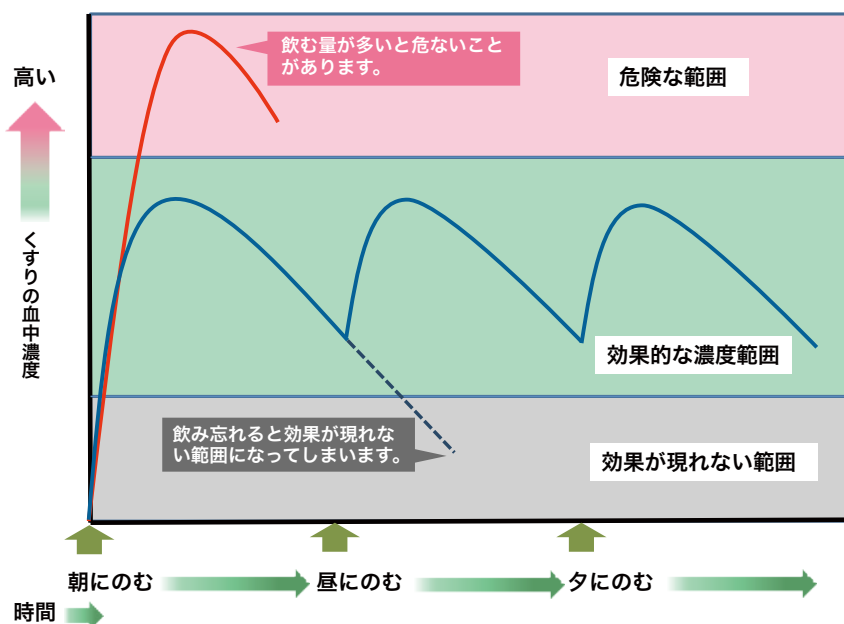
薬剤部 森 達也

### ⑥おくすりが効くしくみ

おくすりが持つ効果を安全に、そして最大限に引き出すためには、正しいのみ方で飲むことが重要になります。今回はこの理由をおくすりが効くしくみと共に話します。

のみぐすりの場合、おもに腸で吸収され、血液に溶けることで目的の部位まで運ばれます。このときに血液に溶けているくすりの濃度を「血中濃度」と呼びます。くすりの効果は、この血中濃度によって左右されます。基本的には、くすりの血中濃度が高くなれば効果が強く現れ、血中濃度が低くなれば効果は弱くなります。しかし、血中濃度は高ければよいというわけではなく、それぞれのくすりに効果的な濃度の範囲があります。くすりを処方された服用量以上飲むと、血中濃度が高くなりすぎて危険な範囲となり、副作用が現れる危険性が高くなります。逆に、少なく飲んだ場合には血中濃度は効果が現れる範囲まで届かず効果が出にくくなります。また、飲み忘れても、効果的な濃度の範囲から外れて効果が出にくくなります。そのため、くすりの用法・用量は、血中濃度を一定に保ち、くすりの持つ効果を最大限に高めて、副作用のリスクを最小限になるように設定されています。

くすりが持つ効果を安全に、そして最大限に引き出すためには、正しいのみ方で飲むことが重要になります。くすりを使用するときには医師、歯科医師、薬剤師の説明をしっかりと聞いておきましょう。



## 退職者紹介

### 退職のご挨拶

事務部長 米山 澄夫

平成27年4月より2年間東京病院に勤務させていただきました。国立病院機構で三施設目の事務部長としての勤務でしたが、これまでで一番建物が立派で新しく、敷地の広い緑豊かな環境に恵まれた施設で勤務させていただきました。幸いにして経営状況も安定してきた時期に着任でき、それを継続できましたことは、職員の皆様の努力と協力のお陰だと感謝しております。今後とも地域の皆様から親しまれ、信頼される病院、地域の医療機関の先生方から紹介しやすい病院、利用しやすい病院を目指して職員とともに努力してまいりますので、よろしく願いいたします。

### 退職のご挨拶

薬剤部長 前田 和俊

3月31日で退職となります。東京病院には3年間お世話になりました。薬剤師が6人増員となり病棟での業務を拡大する時で、多くの若手薬剤師と共に着任しました。おかげさまで医師、看護師をはじめ病院全体のバックアップもあり、何とか今では病棟に担当薬剤師として名前も表示され、皆さんに顔の見える薬剤師が増えてきたと思います。4月からは別な職務に就きますが、東京病院の更なる発展をよそながら祈念しております。

### 定年退職を迎えて

副臨床検査技師長 此崎 寿美

平成27年10月に希望が叶い東埼玉病院より配置換えで参りました。本年3月31日をもちまして定年退職となりますが、瞬く間に過ぎてしまったような1年半でした。昭和54年12月に国立大蔵病院に採用され18年間勤務した後に異動となり、東京病院で5施設目となります。その間、茨城東病院では東日本大震災に見舞われ、東京病院の方々にもご支援を頂きました事、感謝申し上げます。

東京病院に赴任して早々には「東京病院祭」を担当し、翌年には病院機能評価受審に向けスタッフと共に取り組みました事、今では良い思い出となります。東京病院が地域と共に歩んで行かれ、更に発展されることを祈念して挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。

## 診療内容 病床数560床

- 呼吸器センター ○喘息・アレルギーセンター ○消化器センター ○総合診療センター ○放射線診療センター
- 呼吸器内科
  - アレルギー科
  - 消化器内科
  - 総合内科
  - 整形外科
  - 呼吸器外科
  - 眼科
  - 消化器外科
  - 循環器内科
  - リハビリテーション科
  - リハビリテーション科
  - 耳鼻咽喉科
  - リハビリテーション科
  - 神経内科
  - 泌尿器科
  - 放射線科
  - 皮膚科(入院のみ)
  - 放射線科
  - 麻酔科
  - 放射線科
  - 緩和ケア内科
  - 緩和ケア内科
  - 臨床検査科
  - 歯科

## 「人間ドック」・「肺ドック」・「消化器ドック」受付しております。

<実施期間> 「人間ドック」：平日の月・木・金曜日のみ(金曜日の人間ドックはペプシノゲン検査選択の方のみ可能)  
「肺ドック」「消化器ドック」：平日の月～金曜日

<受診を希望される方は>

完全予約制となっておりますので、ご希望の方は下記の予約センターまでお問い合わせください。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日 8:30～15:00】

受付時間：初診 8:30～14:00 (消化器内科の月、金は12:00までの受付) 予約センター 042-491-2181  
再診 8:00～11:00 (受付時間平日8:30～15:00まで)

## 専門外来案内

専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
禁煙(予約制)	火(午後)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器関係 肺がんセカンド オピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,800円]
咯血(予約制)	火(午後)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を咯血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
間質性肺炎(予約制)	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合もあります。
非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
難治性喘息外来 (予約制)	月・水・金(午前)	通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない難治性喘息の方。
ものわすれ外来(予約制)	水(午後)、 木(第1・3週のみ)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)
高次脳機能外来	木 (第1週・第3週のみ)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診)。
肝胆膵(予約制)	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆膵疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)
白内障外来(予約制)	水(午後) 13:30～15:30	白内障の診断、手術の相談、説明など、これから白内障手術を検討されている方の各種相談などを行っています。

## 医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約：診療依頼書をFAX送信して下さい  
CT・MRI検査の申し込み：医療連携室へお電話下さい

## 医療連携室

FAX 042-491-2125 (8:30～17:15)  
TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

## 交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)

30分以内 無料

31分～4時間 100円

以後1時間毎 100円

(20時15分～7時 1時間毎300円)

## WEB検索

東京病院

検索

